

\*\*\* 事 \*\*\*

消息

野口英世の横浜海港検疫所赴任の時期を特定

—— ”ペスト騒動“ の前日だった ——

中村 澄夫

長年不確定のままであった、野口英世が検疫医官補として横浜海港検疫所に赴任した日が明らかに became したので報告する。

明治三十二年、日本はその五年前から列強諸国と結んできた平等条約が実施され、ようやく諸外国と対等に交渉できる主権を獲得して、本当の意味での独立国となった。そして海港検疫もこの条約改正と軌を一にして実施された。同年二月十四日に海港検疫法が公布され、四月十三日には海港検疫所官制が公布、内務省直轄の検疫所が横浜、神戸、長崎、口ノ津（長崎県）に設置された。

横浜には横浜海港検疫所（横浜市本庁）が神奈川県庁内に設けられ、事務一般を執り行う検疫所の本部としての機能をもった。これに対し、検疫・細菌検査・消毒・停留・隔離等の検疫所の実質的な機能については同じ所管に属する長浜検疫所（神奈川県久良岐郡金沢村長浜）が担当するところとなった。四月十三日にこの横浜海港検疫所でも所長以下職員

任命が行われたことが官報の記述から推測される。

数多い野口英世の伝記の中で最も信頼でき、野口の伝記の原典といわれている奥村鶴吉「野口英世」(岩波書店 昭和八年)によると、野口は横浜海港検疫所が開かれたひと月後の五月に、北里柴三郎の勧めで伝染病研究所の助手(筆者注、四月八日に副手から専任の助手に昇格したばかり)を辞して同検疫所に検疫医官補として赴任した、とされている。しかし、当時の辞令や期日を示す記録等は何一つ見つかっていないので、「五月着任」ということを確認する手がかりがこれまで全くなかった。

ところが今回、百五十四通にのぼる野口英世の若い時代の未公開の書簡(ほとんどが野口↓恩師の小林栄宛のもの)が九年の歳月をかけて解説・編集されて、『野口英世書簡集 IV』(野口英世記念会 平成十八年五月)として刊行された。その中に、横浜海港検疫所関連の手紙が初めて一通見出され、そこに内務省より海港検疫医官補の辞令を受けた日、及び同検疫所に赴任する日の記述があったのである。

以下に、同書簡集より該当する明治三十二年六月二十一日付の手紙(野口↓小林栄宛)の一部を引用する。なお、筆者はこの手紙について、平成十八年四月二十二日(土)に猪苗代の野口英世記念館を訪ね、その前日から始まった特別展(「恩師への手紙初公開」平成十八年四月二十一日、十一月三十日)で現物の手紙(写真1)を見学し、特に年月日について間違いのないことを確認した。

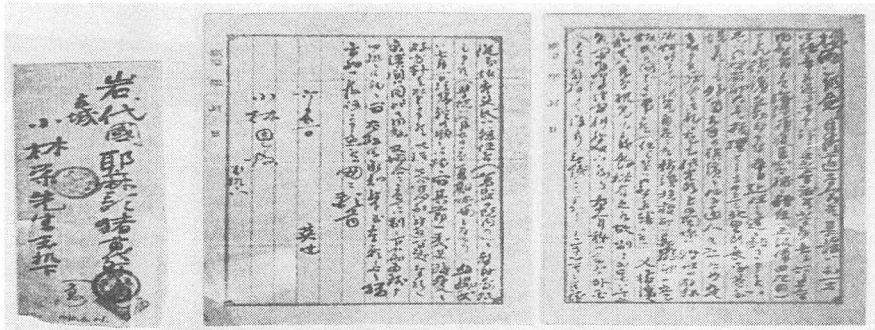


写真 1 小林栄宛の野口英世の書簡と封筒 (表)  
(明治32年 6 月21日付)

梅雨の候、愈々御清適奉賀候。其後ハ不一方御疎音ニ打過き御申訳も無之奉謝候。小生事、去る六月十六日、内務省より海港検疫医官補ニ転任(五級俸四拾円)せられ、横浜在勤被申付、本日赴任の途に就き申候。是ハ内務省部内にて拔擢せしものにて、北里所長も甚だ惜まれしも、外国相手の横浜ニ、他に適人無之のため、如此相成申候次第第二御座候。尤も研究所との関係ハ、転任の有様故、何時にても研究自在ニ候。横浜検疫部ハ、県庁部に在り、坂氏と同じき席ニ候。(但し小生ハ内務直轄ニ候) 又、横浜ニ於てハ、充分研究も可致余裕有之候故、別ニ不足ハ無之候間、乍他事、御安心被成下度候。

—— 以下略 ——

六月二十一日

英世

小林恩師 玉机下

(封筒)

(表) 岩代国耶麻郡猪苗代町古城

小林栄先生机下 (急)

(裏) 芝区伊皿子町七拾番地

野口英世

六月二十一日

(筆者注、手紙文中の波線部分は筆者記す)

このように、この手紙には野口英世が

①明治三十二年六月十六日に内務省より、横浜海港検疫

所の検疫医官補に転任（五級俸四拾円）の辞令を受けたこと。

②明治三十二年六月二十一日に東京から横浜海港検疫所へ赴任の途についたこと。

が明確に記されている。これにより、先にふれた従来の伝記による「五月着任」は間違いであることが明らかになった。また、野口が長浜検疫所で関わった「亜米利加丸あめりかまるによるペスト騒動」（筆者注、明治三十二年六月二十二日～六月三十日。この「ペスト騒動」については、当時の毎日新聞に石川安次郎視察特派員による詳細な記事がある。なお、このペスト騒動の時期について、先の奥村鶴吉「野口英世」やそれを原典として書かれたほとんど全ての他の伝記では、九月としているが、前述したことからこれは明らかに間違いである）は、従来の着任して約ひと月余り後ではなく、まさに着任した翌日ということになり、長浜検疫所の組織や施設などの全てに不慣れな時の出来事だったことがわかる。さらにまた、野口の検疫所勤務の期間が従来の五ヶ月（五月～九月）ではなく、約三ヶ月（六月二十一日～九月）ということも大きな修正点である。

以上のように、今回、野口英世の横浜海港検疫所への着任の時期が特定されたことにより、いくつかの事項で修正点が生じている。野口の検疫医官補時代の事蹟の再検討が必要である。

（神奈川県大学生物学教室／野口英世細菌検査室保存会）

## 例会記録

平成十八年四月例会

平成十八年四月月二十二日

順天堂大学医学部九号館二階八番教室

一、「窠篤児薬性論」をめぐって

遠藤正道

二、ビデオ鑑賞

漢方医学の歴史一

大陸医方と日本医療の

夜明け

漢方医学の歴史二 西洋医学伝来から現代

の漢方医学

平成十八年六月例会

平成十八年六月二十四日

順天堂大学医学部九号館二階八番教室

一、イエスの治療と釈迦の治療

杉田暉道

二、対馬宗家文書に見る産科資料 第一報

酒井シツ